

人~25年間のアップデート

6,434人の尊い命が失われたことは、決して忘れてはいけません。たった20秒足らずの揺れが街を破壊し、大切な人の命を奪った阪神・淡路大震災から1月17日で25年を迎えます。

この25年間に日本全土で様々な災害が発生しました。その都度、我々は**防災活動のアップデート(更新)**を行いました。災害は地震だけではありません。多発する猛烈な力の台風、突然の豪雨や強風、更には都市型災害まで、カタチを変えて我々の生活を破壊しようと襲ってきます。災害がカタチを変えるならば、我々の活動もカタチを変えて対抗しなければなりません。いつまでも同じことをやっていたら、**災害のバージョンアップ**に耐えることができず、災害抵抗力を維持向上することはできません。

さて、25年前以前を振り返ってみましょう。筆者の私自身も阪神・淡路大震災までは、地域活動や管理組合活動にも関わりを持っていませんでした。多くの住民は当時を振り返ると同じようなことを仰っています。でも先人の管理組合や町内会(現自治会)の役員になられた方々は、当時も地域活動に真摯に取り組まれ、真面目に毎年消防訓練も行われていたことは紛れもない事実ですし、頭の下がる想いです。ところが、あの日を境にすべてが一変しました。「**防災**」というものをやらなければいけない。そう感じ始めたのです。ところが「**防災活動**」とは、実際のところ何をすれば良いのかが全く判らない状態でした。何故なら、今までの活動が「**火災・火事**」に対しての準備訓練を行っていたのだと気付くのです。そうです!あらゆる災害への備え「**防災活動**」ではなかったことに多くの人が気付きはじめたのです。その気付きは、奇しくも阪神・淡路大震災が無知な我々に「**学び**」を教えたのでした。震災から2年目。繰り返し報道される「**防災・備え**」という言葉に我々も興味を持つようになります。しかし、何をすれば良いのかが判らない。資料がない、あっても「**消防訓練**」の延長線上ばかり。『**何か違う!**』と。そこで外部の方々に「**防災活動・防災とは何ぞや?**」と問いかけました。あれだけの災害後にもかかわらず「**防災**」を探し出せなかったのです。書籍もない、当時はインターネット環境も今ほど充実していない。行政も「**防災活動をしましょう**」と連呼する割には、**防災とは何をすれば良いのか**教えてくれなかったのです。その苛立ちは倍増していきました。特に地方の行政は国や専門家の研究資料を活用していない



ことや存在すら知らない(このことは先日1月7日神戸新聞記事に掲載済)。そこで禁断の手法、遠隔地の行政機関や消防機関に問い合わせました。すると以前にもお話ししたように「**待ってました!**」とばかりに資料を惜しみなく送付してくださいました。我々は届いたダンボールを目にして、涙が溢れる想いで開封したことを昨日のように覚えています。「**なるほど! 防災とはこういうことなんだ!**」と、今まで自分の中に存在していた「**防災のハードル**」が消えていったことを覚えています。この時に学んだ大切なことがあります。それは『**感謝!**』でした。その時、気付いたので。我々は当たり前のように何でも行政サービスを受けることができるものだ勘違いしていたのです。

「**行政も防災を知らない!**」知らないものは伝えようがなかったのでしょうか。全国的にも『**暗中模索**』のような時期だったのです。そのような中、加古川市でも防災講演会が開催されました。震災当時の尼崎市消防局長 堂本氏でした。この講演が我々を更なるステップアップに導いてくれました。堂本氏曰く『**どの地域にも、自分の仕事や趣味を通して色々な能力や特技を持った人がいる。その人たちを防災活動に利用しよう**』という内容でした。この時『**人材**』というものを気付かされたのです。自分ひとりでは一人の能力や知識に限界がありますが、人が集まれば集まるほどに知識の貯蔵庫(シンクタンク)ができあがります。その索引(インデックス)をつくれれば良いのだと。そこで生まれたのが、**町内チャンピオンマップ(現ちからこ部)**でした。革新的な防災活動だったのですが、第一期募集には登録者が集まりませんでした。それは何故か?我々には決定的に足りないものがあることに気付かされます。それは住民の方々からの「**我々への信頼信用**」だったのです。防災活動は社会的にも必要な活動です。しかし、そこには我々が見えていない、聞くことが出来ていない、数々のものが隠れていたのです。



「**コミュニティ**」だけではなく「**コミュニティ力のアップ**」が不可欠。そのことを25年間の防災活動の中で、皆様から教わりました。グリーンシティ防災会は全国的にも注目を受けることが多いのですが、そこには多くのボランティアの方・無償提供・協力・支え・繋がりがあって『**今**』があることを忘れてはいけません。

今年のテーマ『**人~25年間のアップデート**』では、防災のキーワードを皆様と一緒に再確認していきます。今回のキーワードは『**感謝!**』でした。さて次回は?

